

# 発掘ニュース

第 19 号

平成 元 年 5 月 7 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団  
TEL 0246 (23) 9348

## 植田郷B遺跡現地説明会

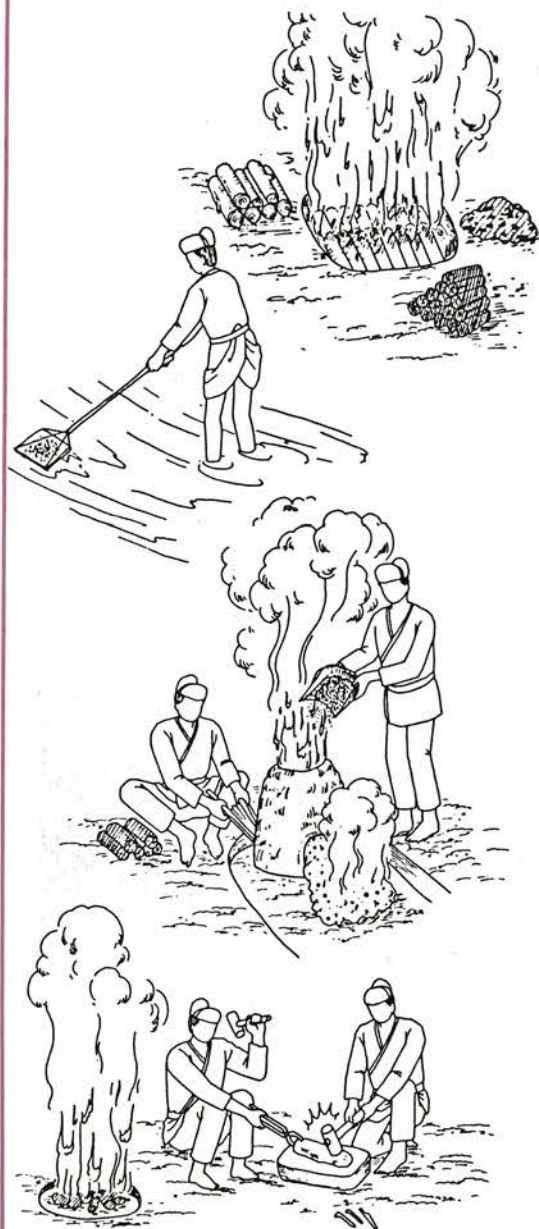
【遺跡の概要】 植田郷B遺跡はいわき市平の市街地南東4km、太平洋に注ぐ滑津側中流左岸の丘陵中腹に形成された標高33~45mの台地に位置する。台地には白坂遺跡や植田郷A遺跡があり、本遺跡は台地の北側の丘陵裾部に隣接する。この台地からは、鉄滓や土器が広範囲にわたって採集できる事が知られており、今回、植田郷B遺跡の北側を常磐バイパスが建設することになり、文化財保護法に基づき記録保存のため発掘調査を実施しました。

発掘調査は昭和62年6月から7月まで第一次調査を行い、平安時代頃の土器を多く出土する土層が発見できました。第二次調査は昭和63年9月から始まり、縄文時代晩期、弥生時代中・後期、古墳時代前・後期、平安時代の土器・石器や住居跡・土坑・柱穴等が発見できました。特に注目するのは、平安時代頃の鍛冶炉や木炭を作った跡や鉄を鍛造した時に出る剥片も出土しています。



平安時代の焼成遺構（鍛冶炉）

【発見した遺構】 植田郷B遺跡は、発掘調査により縄文時代晩期（約2500年前）から平安時代（約1100年前）にかけての遺跡であることがわかりました。発見した遺構は、縄文時代晩期の埋設土器1基、古墳時代後期（約1350年前）の竪穴住居跡1棟、平安時代の住居跡5棟、土坑48基、焼成遺構31基、ピット106個でした。この遺跡には、当時平坦な土地が少なかったようで狭い平坦部に集中して遺構が認められました。これらの遺構の中で注目されるのは、平安時代の製鉄遺構と考えられる焼成遺構です。古代の製鉄は、製品ができるまでに左図のように製錬・精錬・鍛造の三つの工程があります。工程を説明すると、まず、



古代製鉄の作業工程(仮)

河岸や海岸で砂鉄を取り、製鉄炉に木炭と共にに入れて燃やし、フイゴで風を送り炉内の温度を高くします。すると鉄分の多い鉄塊ができます（製錬）。これをもう一度木炭と共に炉に入れて燃やし、荒鍛（あらきた）えを行い不純物を取り除きます（精錬）。そして、不純物の少なくなった鉄塊を鍛冶炉で熱し、鍛えて製品を作ります（鍛造）。植田郷B遺跡より発見された焼成遺構は、精錬・鍛冶の工程の鍛冶炉と、この時に燃やす木炭を焼いた跡と考えられます。このことは、出土遺物に鉄滓

や鉄塊を鍛えた際に飛び散る鍛造剥片があることからもうなづけます。そして、平安時代の住居跡は、これらの作業に従事した人々の住居もしくは作業場と考えられ、焼成遺構も多数隣接して発見され、かなり大がかりな作業をしていたことがうかがえ古代製鉄の一端が明らかになりました。

【出土した遺物】 当遺跡からは縄文時代晩期、弥生時代中・後期（約2000～1700年前）、古墳時代前・後期、奈良・平安時代にかけて土器や石器・土製品・自然遺物が多数出土しています。



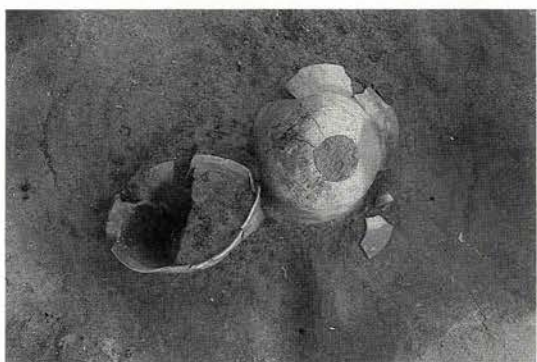
平安時代の住居跡

特に奈良・平安時代の遺物が多く、土師器の坏・甕・蓋、須恵器の坏・壺などが、包含層からだけではなく住居跡や土坑などの遺構の中からも出土しており、遺構の時期を知る重要な手がかりとなっています。沢部からは、平安時代の曲物・皿・桶の底板などの木製品やヒョウタンの加工品も出土しています。



平安時代の焼成遺構（木炭焼成遺構）

また、平安時代の住居跡や、焼成遺構の周辺の土をサンプリングし、水洗選別（すいせんせんべつ：ふるいにかけてながら水洗いをする）を行ったところ、鍛冶工房であったことを証明する鍛造剥片がたくさん検出



古墳時代後期の住居跡内の土師器



重なって出土した土師器の坏



平安時代の木製品（曲物）

されました。製鉄の際に溶け出した不純物が固まった鉄滓も遺跡の各所から出土しており、当遺跡が平安時代の製鉄関連遺跡であったことは間違いないと思われる。

水洗選別では、住居跡の床面の土の中から炭化した米や豆類、種子なども検出されており、当時の人々の食生活もうかがうことができます。

【まとめ】 植田郷B遺跡は、滑津川中流左岸の丘陵上に位置し、南東方向に展開する滑津沖積地を一望できる景所でもある。今回の発掘調査によって、鉄滓や土器が採集できる台地の一面に、縄文時代晩期の人々が使用した道具である土器や石器が出土し、弥生時代の土器や石器も出土しています。しかし、住居跡は発見できませんでした。土器や石器の遺物は、遺物を多く出土する土層の中でも3~4mも深い土層から出土しています。歴史時代に入ると植田郷B遺跡では、古墳時代後期と平安時代の住居跡が6棟発見できました。1棟の平安時代の住居跡では、多くの炭化した米などが床から出土しています。また、本遺跡では鉄を作った炉跡やその燃料の木炭を作った跡を発見しました。いわき市内では内郷御厩の番匠地遺跡が知られていますが、多量の鉄滓が出土し、多くの製鉄関係の遺構を発見したのは本遺跡が初めてです。高久地区にはこの他、高久古館の北側にある金古沼周辺からも多量の鉄滓が採集できるので、やはり製鉄遺跡があると推定できます。鍛造した鉄の需要先は石城郡内で消費されたものと考えられ、高久地区は、一大鉄の生産地であったと推測されます。